

相加平均と相乗平均の不等式からコーシー・シュワルツの不等式を導く

x と y を負でない実数とするとき、不等式

$$\sqrt{xy} \leq \frac{x+y}{2} \quad \dots \textcircled{1}$$

が成り立つ。これが相加平均と相乗平均の不等式である。これを用いてコーシー・シュワルツの不等式

$$(a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n)^2 \leq (a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2) \quad \dots \textcircled{2}$$

を証明しよう。

まず、 $a_1, a_2, \dots, a_n, x_1, x_2, \dots, x_n$ を負でない実数とする。このときは不等式

$$a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n \leq (a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)^{\frac{1}{2}}(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2)^{\frac{1}{2}} \quad \dots \textcircled{3}$$

を示せばよい。等号は $a_1 : x_1 = \dots = a_n : x_n$ のときである。

$x = \frac{a_k^2}{a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2}$ 、 $y = \frac{x_k^2}{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}$ を $\textcircled{1}$ に代入し、 $k = 1, 2, \dots, n$ について加える。

$$\begin{aligned} & \frac{a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2} \sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}} \\ & \leq \frac{1}{2} \left(\frac{a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2}{a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2} + \frac{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2} \right) = 1 \end{aligned}$$

が得られる。これは $\textcircled{3}$ に他ならない。等号は $x = y$ つまり

$$\frac{a_k^2}{x_k^2} = \frac{a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2}{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}$$

が各 k について成り立つときである。つまり $a_1 : x_1 = \dots = a_n : x_n$ のときである。

a_k, x_k が負でないとはかぎらないとき。一般に実数 y_1, \dots, y_n について

$$|y_1 + \dots + y_n| \leq |y_1| + \dots + |y_n|$$

が成り立ち、等号はすべて同符号のとき成立する。これは $n = 2$ のときは両辺 2 乗して、一般の n については数学的帰納法で直接示される。よって $\textcircled{2}$ は

$$\begin{aligned} (a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n)^2 &= |a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n|^2 \\ &\leq (|a_1||x_1| + |a_2||x_2| + \dots + |a_n||x_n|)^2 \\ &\leq (a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2) \end{aligned}$$

より成立する。等号は $a_1x_1, a_2x_2, \dots, a_nx_n$ が同符号でかつ $|a_1| : |x_1| = \dots = |a_n| : |x_n|$ のとき。つまり $a_1 : x_1 = \dots = a_n : x_n$ のときである。